

日本分類学会連合ニュースレター

*News Letter published by the Union of
Japanese Societies for Systematic Biology*

No.8 [2005年11月15日]

連載「連合加盟学会の活動紹介」

日本土壌動物学会

渡辺弘之(日本土壌動物学会会長)
藤山静雄(日本土壌動物学会担当連絡員)

【学会の目的】

日本における土壌動物学の進歩と普及を図ること、平易に言えば土壌動物に関心を持った研究者、市民の研究における協力や親睦を深めて土壌動物学に関する新事実の発見や、それらの情報を広く普及することである。

【沿革】

日本土壌動物学会は1967年に75名の研究者により発足した日本土壌動物研究会が基礎となり、発足から11年間に17号の研究会誌が発行され、後の1978年に日本土壌動物学会が設立された。学会設立後は毎年1回の大会を開催し、会誌「Edaphologia」を年2回発行している。2005年夏現在、第77号までが発行され、現在に至っている。また、会員への情報や連絡を密にするために1988年より連絡誌「どろのむし通信」が発行され、現在第37号を数える。

【活動】

毎年5月後半に開催される総会、大会、懇親会、エクスカージョン、この時に開かれる市民講演会、更には、不定期に開催される学生を主な対象とした体験実習、学習会等が直接のふれあいの場を持つ主な活動である。このほか、土壌動物学と関連する各種学会、シンポジウム、市民活動、講演会等を後援したりして、この分野やさらに関連する分野の発展にも貢献する活動をしている。

投稿論文を主にして年2冊発行される機関紙「Edaphologia」、各種の活動やイベントなど、個人的な感想等も含めたかなり気楽に投稿できる情報誌「どろのむし通信」を年2回発行している。

【会誌】

会誌「Edaphologia」、及び会員への情報誌「どろのむし通信」をそれぞれ年2回発行している。

【会費】

一般会員6,000円、学生会費4,000円(指導教官等による学生証明がある場合に限る。)、団体会員は9,000円、賛助会員は年額30,000円。

【学会の運営と会員数】

学会の運営は、会長1名、評議委員約15名、学会幹事2名、編集委員長1名、編集委員12名、「どろのむし通信」幹事1名を中心に行われている。これらの役員は会員の互選及び評議委員会により決定される。役員の任期は2年である。

2005年10月15日現在の会員数は、一般会員273名、

学生会員28名、名誉会員6名、団体会員10名、購読会員4名、合計321名である。

【大会】

大会は2回に1回は関東を中心とし、各地交代で毎年5月後半の週末に2~3日間の会期で開催されている。この大会の特徴は、参加者が100人前後と比較的少人数であるため、多くの場合、宿泊をともにしながら十分討論し、会員同士はまさに寝食を共にしながら相互親睦が図られることである。多くの新人がこの大会のそうした雰囲気を感じ入り、その後学会に入会している。また、大会後に必ずエクスカージョンを実施し、関連する内容に関して現地見学を通して会員が学ぶ機会を作るなど、会員サービスのための配慮がきめ細くくなされている。

【学会情報の入手、入会に関する問合せ、その他資料の請求】

学会に関する詳しい情報は、日本土壌動物学会ホームページ<http://www.soc.nii.ac.jp/kssz/index.html>をご覧ください。入会に関する問合せは、メールまたは電話等で直接下記までご連絡下さい。入会申し込み用紙と詳しい情報、等の資料をお送り致します。お気軽にお尋ね下さい。

日本土壌動物学会事務局事務局長 藤山 静雄
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1
信州大学理学部生物科学教室内
電話：0263-37-2498；Fax:0263-37-2560 藤山宛
E-mail：sfujiya@gipac.shinshu-u.ac.jp

日本プランクトン学会

寺崎 誠(日本プランクトン学会会長)
山口 篤(日本プランクトン学会幹事長)

【沿革】

1952年9月に北海道大学水産学部浮游生物学教室 元田 茂 教授(当時)の呼びかけで、我が国のプランクトン研究者の研究上の連絡を図り、必要な場合には海外の研究者とも連絡をとることを目的として「日本プランクトン研究連絡会」が発足しました。機関誌は「日本プランクトン研究連絡会報」の名称での矢野養殖研究所長・佐藤忠勇氏が代表になりました。1968年4月の総会で、会報の内容水準を高めるため、また日本学術会議内に設置されている各種の「研究連絡委員会」との混同を避けるため、本連絡会の名称を「日本プランクトン学会」とし、機関誌を「日本プランクトン学会報」と改称しました。学会誌は1997年に英文誌「Plankton Biology and Ecology」と和文誌「日本プランクトン学会報」に分離しました。初代会長は元田 茂氏で、以降順に丸茂隆三氏(東京大学海洋研究所)、入江晴彦氏(長崎大学水産学部)、安楽正照氏(南西海区水産研究所)が会長に就任しました。さらに現在まで遠部 卓(広島大学生物生産学部)、谷口 旭(東北大

学農学部), 大森 信(東京水産大学), 上 真一(広島大学生物生産学部), 寺崎 誠(東京大学海洋研究所)が会長を歴任しました。現在, 学会事務局は北海道大学水産学部にあります。

【活動および出版物】

年2回の学会誌発行(英文誌「Plankton Biology and Ecology」および和文誌「日本プランクトン学会報」と)、春季には日本海洋学会春季大会の会期中に学会主催のシンポジウムを行い、秋季には日本ベントス学会と合同の大会を開催しています。学会誌のうち英文誌については2006年より日本ベントス学会との合同出版を行い、名称を「Plankton and Benthos Research」と改称し、年4回の発行を行う予定です。

【会員構成】

現在の会員数は634名で、その構成は一般会員436名、名誉会員3名、外国会員42名、特別会員12名、学生会員80名、団体会員51名、賛助会員10名です(2005年3月現在)。学会役員(2005年4月~2007年3月)は以下の通りです。

- ・会長: 寺崎 誠
- ・副会長: 志賀 直信
- ・評議員: 池田 勉, 平川和正(北海道); 遠藤宜成(東北); 石丸 隆, 津田 敦, 中田 薫, 西田周平, 広海十朗, 福代康夫, 古谷 研(関東); 花里孝幸(信越・北陸); 澤本彰三, 関口秀夫(東海); 西川哲也, 真鍋 武彦(近畿); 上 真一, 大塚 攻, 吉松定昭(中国・四国); 本城凡夫, 松岡数充(九州)
- ・幹事: 山口 篤(幹事長), 西川 淳, 豊川雅哉(会長付)
- ・編集委員長: 広海十朗(和文誌), 今井一郎(英文誌)
- ・監査: 門谷 茂, 小鳥守之

【入会方法・会費など】

入会案内: 海洋および淡水プランクトンの研究並びにプランクトンと密接な関係にある湖沼, 海洋, 水産増殖, 漁業等の研究に関心をもつ個人, 団体の入会を歓迎します。入会金不要。会員は年4回発行される「Plankton and Benthos Research」および年2回発行される「日本プランクトン学会報」の配布をうけ, また両誌に投稿出来ます。

入会方法: 入会申込書を郵送またはオンライン登録することで入会できます。入会申込書書式およびオンライン登録方法の詳細については「日本プランクトン学会ホームページ」(<http://www.plankton.jp/>)を参照してください。

年会費: 正会員6,000円, 外国会員6,000円(英文誌のみ購読を希望する場合は5,000円), 学生会員3,000円, 団体会員12,000円

事務局: 〒041-8611 北海道函館市港町3-1-1 北海道大学水産学部 海洋生物学講座(プランクトン)内 日本プランクトン学会 山口 篤

Tel: 0138-40-5543

Fax: 0138-40-5542

E-mail: plankton@fish.hokudai.ac.jp

URL: <http://www.plankton.jp/>

なにかご不明な点がありましたら, どうぞ事務局にお問い合わせください。

日本珪藻学会

渡辺仁治(日本珪藻学会会長)
浅井一視(日本珪藻学会庶務幹事)

【沿革・活動】

1975年から1979年までの5年間に, 本学会の前身である「日本珪藻研究者の集い」の会員は43名にまで増加し, そこで論議されてきた内容が日本珪藻学会誕生の起点となった。日本珪藻学会第1回大会は, 1980年1月に奈良市(大会会長・渡辺仁治)において開催された。その折に, 会員相互の交流をより深める目的で, 秋に研究集会を持つことが提案され, 同年11月長野県上林温泉において第1回研究集会(研究集會会長 福島博)が開催された。それ以後毎年大会と研究集会とが1回ずつ行われて現在に至っている。2005年5月には第26回大会(大会会長 田中正明)が四日市大学で, 11月には第25回研究集会(研究集會会長 大谷修司)が島根大学で開催された。

学会としての組織ができたのは, 1981年であった。同年4月に会長・運営委員の最初の選挙が実施され, 高野秀昭が立会人となって開票が行われ, 初代会長には根来健一郎, 運営委員に安藤一男・小林 弘・高野秀昭・津村孝平・南雲 保, 根来健一郎, 福島 博, 渡辺仁治の8名が選出された。

【学会誌】

実質的な学会の発足は, 1985年12月1日, 学会誌第1巻の発刊にあつたといえよう。第1巻は英文3, 和文1の原著を含むわずか40ページの会誌であった。しかし, 当時の60名にも満たない会員数から考えて, 学会誌の発刊は不可能に近く, たまたま学会誌発刊の機を同じくした「Diatom Research」誌の編集者F.E.Round博士から, 小人数の学会員でありながら出版費をどのようにして捻出したのかと尋ねられもした。当時の学会誌発刊の原動力は, 下記の大型3研究において成果を挙げた研究者の強い願望が基盤となったことを, 研究テーマ・協同研究者名と共に特記しておく。なお, 第1巻以後の学会誌のページ数は大幅に伸び, 第20巻までの平均ページ数は141ページである。しかし初期の頃には著者に印刷費の一部を負担していただいたこともあった。

1. 文部省「環境科学」特別研究 生物指標検討班 代表者・門司正三, 協同研究者: 手塚泰彦・福島博・渡辺仁治
2. 文部省「環境科学」特別研究 1979年~1981年「実験水路による底生生物の環境指標性の研究」代表者: 渡辺仁治, 協同研究者: 安野正之・御勢久右衛門・安田郁子・井山洋子・福島 博・小林艶子・寺尾公子・植田勝巳・浅井一視・角谷晴代・藤平緑・岸 万里子・山本裕美
3. 日産学術振興財団「珪藻群集による陸水汚濁の定量的評価法の研究」1983年~1985年 代表者: 渡辺仁治, 協同研究者: 根来健一郎・福島 博・小林 弘・浅井一視・後藤敏一・南雲 保・小林艶子・真山茂樹・伯耆晶子

これらの研究者の多くは, 本学会26年間の会長, 運営委員, 編集委員, 幹事など, 学会役員として, 学会の発展を支えてきたメンバーでもある。

【会員数】

2005年4月末現在, 普通会员238名, 名誉会員4名, 団体会員5名, 賛助会員3名である。

【学会費】

一般 5,000 円・学生 3,000 円・家族 2,000 円
 団体会員：10,000 円
 個人賛助会員，団体賛助会員：共に 20,000 円

【入会】

下記学会ホームページより入会登録フォームをとりだし，それを下記浅井一視宛に送付して入会の申請をしていただきたい。

〒569-0801 高槻市大学町 2-7
 大阪医科大学生物化学教室 浅井一視

【ホームページ】

URL：http://www.soc.nii.ac.jp/jsdt/

ホームページには，入会手続き，学会案内，学会誌掲載論文リスト，および，大会と研究集会のプログラムなどを掲載している。

【バックナンバー】

各巻〔第 1 巻～第 20 巻〕共に会員価格 2,500 円，非会員価格 5,000 円。

日本地衣学会

吉村 庸（日本地衣学会会長）
 岡本達哉（日本地衣学会学術交流委員長）

【沿革】

地衣類に関する研究は，分類・生態・化学成分をはじめ，環境指標としての利用や培養による物質生産，バイオマテリアルの開発など，幅広い分野の研究者によって活発に行なわれている。しかし国内においては地衣類を専門とした学術雑誌が存在しない状況が続き，地衣類に関する研究者の間で，研究分野間の交流を一層盛んにしたいという要望が高まっていた。

このような状況を解消するため，学術雑誌の発刊，および研究発表会の開催を主な事業とする学会の設立に向け，2001 年 9 月に日本地衣学会設立準備会が組織された。そして 2002 年 2 月 17 日に高知学園短期大学で設立総会を開催し，日本地衣学会を発足させることとなった。この時点での会員数は個人，団体を合わせて 76 名であったが，その後順調に入会者が増え，2005 年 6 月末の時点での会員数は，個人および団体で計 150 名となっている。

【構成】

学会は，通常会員・学生会員・名誉会員・団体会員で構成されている。このうち名誉会員は，国内外の研究者で地衣学の発展に特に多大な貢献をされた方々で，現在 11 名である。

学会の運営のために，会長・評議員（6 名）・庶務幹事・会計幹事を置いている。また，編集・地域活性化・学術交流・ホームページ運営の四つの委員会を設置し，各種業務の遂行にあたっている。

【活動】

(1) 出版物

日本地衣学会では，欧文および和文の学術雑誌として「Lichenology」を年 2 回発行している。各号は原則として 64 ページで，現時点での最新号は 2005 年 7 月に発行された第 4 巻第 1 号である。これまでに刊行された号の目次が学会ホームページから公開されている。また会員相互の情報交換を目的とし，和文の「日本

地衣学会ニュースレター」を不定期で発行している。こちらは地衣類に関するトピックや，全国各地で行なわれた観察会の報告などを中心とし，2005 年 10 月までに 57 号にのぼっている。全ニュースレターの PDF ファイルが学会ホームページからダウンロード可能である。

(2) 行事および普及活動

(a) 大会

2002 年 7 月に神戸薬科大学において第 1 回大会を開催して以降，毎年夏に大会を開き，役員会・総会・研究発表会等を行なっている。これまでの大会開催地は，第 2 回大会（2003 年 8 月）京都大学，第 3 回大会（2004 年 7 月）玉川大学，第 4 回大会（2005 年 7 月）広島大学となっている。

なお，来年度の第 5 回大会は，2006 年 7 月に明治薬科大学において開催される予定である。

(b) 地衣類観察会

学会では，毎年夏から秋にかけて地衣類観察会を開いている。観察会には分類の専門家を講師に招き，開催地周辺の地衣類フロラの特徴や，分布上特に注目すべき種などについて解説していただくことで，参加者の知識を深めている。

(c) ワークショップ

地衣類について研究を始めた学生などを対象に，地衣類の同定方法や，化学分析，培養などの基礎的な技術を学ぶためのワークショップを，2003 年から毎年夏に開催している。本年度のワークショップは，8 月 26 日より 6 日間，秋田県立大学において行なわれた。

(d) 青空地衣観察会

地衣類についての普及活動の一環として，2003 年より全国各地で「青空地衣教室」と題した集まりを開いている。この集まりでは，より多くの方々に地衣類への関心を持っていただくため，地衣類と蘚苔類の見分け方や主要な出現種の特徴などの入門的な内容が中心となっている。「青空地衣教室」は 2005 年 9 月の時点で既に 17 回を数え，毎回多くの方々に参加していただいている。

【入会について】

日本地衣学会には，学会の目的に賛同いただける個人，団体であれば，どなたでも入会が可能である。

(1) 会費

年会費は，正会員 4000 円，学生会員 2000 円，団体会員 10000 円となっている。

(2) 入会方法

入会を希望される方は，ホームページで公開している入会申込書に必要事項をご記入の上，学会事務局まで送付されたい。

【学会事務局】

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学 生物資源科学部 生物生産科学科

次世代生物生産システム学講座

TEL：018-872-1646

FAX：018-872-1678

担当者：山本好和（庶務幹事）

E-mail：yyamamoto@akita-pu.ac.jp

【学会ホームページ】

<http://www.lichen.akita-pu.ac.jp/jsl/index.shtml>

日本動物分類学会

武田正倫（日本動物分類学会会長）

【沿革・活動】

日本動物分類学会は、1950年10月、動物分類学会 The Systematic Zoology Discussion Group として創立され、翌年の秋には「動物分類学会会務報告」第1号が発行された。会務報告は1960年発行の第23号から「動物分類学会会報」と名を改め、1981年発行の第54号までが出版された。実際的な会務の記録だけでなく、毎号、話題性のある動物群や系統的に問題のある動物群の総説などが掲載されており、現在でも有用性の高い内容である。

学会設立当初より国内各地で年1回総会とシンポジウムが開催され、また、東京を中心に年に数回の例会が開催されていた。1964年に学会の英名を The Japanese Society of Systematic Zoology と改め、年1回の総会を動物分類学会大会と称することとなった。翌1965年に国立科学博物館で第1回大会が開催されたが、講演題数は17題、参加者は60名であった。講演内容を論文集としてまとめたのが、「日本動物分類学会誌 Proceedings of the Japanese Society of Systematic Zoology」で、この年の9月に第1号が発行された。大会で口頭発表された論文をまとめて印刷するというスタイルは長く継続され、1978年からは原著論文を加えて年に2号発行が原則となった。和文、欧文論文混交の動物分類学会誌は1995年発行の第54号まで続いたが、1996年に和文誌「タクサ」と英文誌「Species Diversity」に分けられた。同年にそれぞれ第1号、第1巻第1号が発行されたが、現在「タクサ」は年に2号の発行で、会員のための各種の情報提供を行っている。一方、「Species Diversity」は年4号発行の国際誌として動物分類学に関する論文が掲載されている。現在、編集委員長は千葉県立中央博物館の朝倉彰（「タクサ」）、静岡大学理学部の塚越哲（「Species Diversity」）の両名である。

学会設立当初から開催されている総会とシンポジウムは現在でも継続されており、春に各地の大学や博物館で大会を開催し、秋の日本動物学会の開催に合わせて時事的あるいは地域的なテーマを選んでシンポジウムを開催している。

2004年5月に千葉県立中央博物館で開催された第40回大会を機に日本動物分類学会賞および奨励賞が創設され、学会賞は北海道大学大学院理学研究科の馬渡峻輔氏に、奨励賞は京都大学総合博物館の伊勢戸徹氏に授与された。本年度（第2回）の受賞者は学会賞が今島実氏（国立科学博物館名誉館員）、奨励賞が駒井智幸氏（千葉県立中央博物館）である。

【会員・会費】

現在、約410名の正会員（学生を含む）、7名の名誉会員、21団体会員、3賛助会員から構成されている。正会員のうち一般会員は年会費7,000円、学生会員は5,000円、団体会員は10,000円、賛助会員は20,000円以上である。

入会は日本動物分類学会のホームページ（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssz2/>）の会員ページから、会員登録フォームに必要事項を入力して入会手続きをすることができる。あるいは、下記の学会本部に連絡して

申し込み用紙を取り寄せ、必要事項を記入して返送することもできる。年会費を納入することによって入会が認められる。

【問合せ先】

日本動物分類学会庶務幹事 藤田敏彦

〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-23-1

国立科学博物館動物研究部

TEL: 03-3364-2311

FAX: 03-3364-7104

E-mail: fujita@kahaku.go.jp

日本分類学会連合加盟学会の大会・シンポジウム

種生物学会

第37回種生物学シンポジウムが以下の要領で開催されます。

会期: 2005年12月16日(金)~18日(日)

会場: 八王子セミナーハウス(東京都八王子市)

参加申し込み・お問い合わせ先の詳細は学会ホームページ <http://sssb.ac.affrc.go.jp/NewFiles/37symposium.html>) をご覧下さい。

日本鞘翅学会

日本鞘翅学会第18回大会を下記のように開催いたします。学会員外の方の参加も歓迎いたしますので、ふるってご参加ください。

会場: 倉敷市立自然史博物館・倉敷市立美術館
(岡山県倉敷市中央2-6-1)

会期: 2005年11月19日(土)~20日(日)

主催: 日本鞘翅学会第18回大会実行委員会

共催: 倉敷市教育委員会

後援: 倉敷観光コンベンションビューロー

倉敷市立自然史博物館友の会

倉敷昆虫同好会

倉敷昆虫館

岡山昆虫談話会

大会日程

第1日: 11月19日(土)

大会受付 09:30~

総会 13:00-13:45

公開特別講演 14:00-15:15

一般講演 15:30-17:00

懇親会 18:00-20:00

第2日: 11月20日(日)

標本同定会 09:10-10:30

ポスター発表 09:10-10:30

一般講演 10:45-12:15

シンポジウム 13:15-15:15

分科会 15:30-17:00

詳しくは大会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsc2/18meet.html> をご覧下さい。

日本古生物学会

日本古生物学会第155回例会が京都大学総合博物館(会場は京都大学時計台記念館)において、2006年2月3日(金)~2月5日(日)に開催されます。個人講演の申込み締め切りは2005年11月30日(水)です(必着, 期日厳守)。

詳しくは学会ウェブページ <http://ammo.kueps.kyoto-u.ac.jp/palaeont/meeting-f.html> をご覧下さい。

日本貝類学会

日本貝類学会平成 18 年度(2006 年度)大会が以下の要領で開催されます。

日時: 2006 年 4 月 8 (土) ~ 9 (日)

会場: 東京海洋大学品川キャンパス

詳しくは学会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/msj5/> をご覧ください。

日本藻類学会

日本藻類学会第 30 回大会が 2006 年 3 月 26 日(日) から 3 月 29 日(水) まで鹿児島大学を会場に開催されます。藻類に興味を持たれている多くの方の参加を希望しています(学会員以外の方の参加も歓迎いたします)。詳細については学会のホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jsp/Welcom.htm> をご覧ください。

日程

3 月 26 日(日): 編集委員会・評議員会

3 月 27 日(月): 口頭発表・ポスター発表・総会
懇親会

3 月 28 日(火): 口頭発表・ポスター発表
公開シンポジウム

3 月 29 日(水): エクスカーション

公募のお知らせ

東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所助手

概要: 棘皮動物を基盤とした進化発生学・比較ゲノム解析に意欲的に取り組む方, 学生の教育および研究指導, 臨海実験所で開催される実習の実務と, 海産生物のフィールド調査に積極的に携わって頂ける方。

応募書類:

- 1) 履歴書
- 2) 研究業績目録(原著論文, 総説, その他に分けること)
- 3) 主要論文 3 編の別刷り(またはコピー) 各 1 部
- 4) これまでに行ってきた研究の概要(1500 字程度)
- 5) 今後の研究に対する抱負(1000 字程度)
- 6) 今後の教育への抱負(1000 字程度)
- 7) 推薦書 1 通, または応募者について参考意見を述べることで出来る方 2 名の氏名 および連絡先

連絡先: 238-0225 神奈川県 三浦市三崎町小網代 1024

担当: 東京大学大学院理学系研究科 教授 赤坂 甲治

募集期間: 2005 年 11 月 30 日まで

**北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
客員研究員**

研究分野: 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教育研究部の以下のいずれかの領域に関連する分野: 生物資源創成領域, 共生生態系保全領域, 持続的生物生産領域, 生物多様性領域, 生態系機能領域, 生物群集生態領域。

応募資格

- (1) 国立大学法人・国立研究機関(特定独立行政法人

を含む)等において, 教育または研究に従事している者で, 任用期間中, 所属機関の身分を有する者

(2) 以下の課題に関連する研究を, 本センターで実施する計画を有する者: 研究課題「北方生物圏の持続的利用と環境保全」

応募書類

(1) 応募申請書(申請者氏名, 現職, 連絡先(TEL, E-mail), 予定している研究課題と研究計画, 任用希望期間を明記したもの) 1 部

(2) 履歴書 1 部

(3) 研究業績目録(原著論文, 著書, 学位論文, その他に分類して作成すること) 1 部

連絡先

060-0811 北海道 札幌市北区北 11 条西 10 丁目 北方生物圏フィールド科学センター 専門職員(人事担当)

募集期間: 2005 年 12 月 16 日まで

第 5 回日本分類学会連合公開シンポジウム

第 5 回日本分類学会連合公開シンポジウムを 2006 年 1 月 7 日(土) ~ 8 日(日) の二日間にわたり, 下記の要領で開催する予定です。年明け早々のお忙しい最中かとは存じますが, ご出席くださいますようお願い申し上げます。

シンポジウム 1:

「ミドリムシは動物? それとも植物? : 原生生物の不思議な世界」

会期: 2006 年 1 月 7 日(土) 13:30-17:30

会場: 国立科学博物館分館講堂

- 1. 「植物としてのミドリムシ: ユーグレナ藻綱とは?」
中山 剛(日本藻類学会: 筑波大学)
- 2. 「ミドリムシの細胞体変形運動と滑走運動」
洲崎敏伸(日本原生動物学会: 神戸大学)
- 3. 「真核生物の系統樹におけるユーグレノゾアの位置づけ」
橋本哲男(日本進化学会: 筑波大学)
- 4. 「ミドリムシは"植物"の中に包含される?」
野崎久義(日本植物分類学会: 東京大学)
- 5. 「ミドリムシの"植物"としてのメカニズム」
石田健一郎(日本藻類学会: 金沢大学)

シンポジウム 2:

日本におけるドイツ年記念シンポジウム

「日独学術交流史・相模湾動物相調査の歴史と成果」

会期: 2006 年 1 月 8 日(日) 10:00-13:00

会場: 国立科学博物館分館講堂

司会: 馬渡峻輔(北海道大学)

主催: 北大 21 世紀 COE プログラム「新・自然史創成」

共催: DAAD, Senckenberg Institution, 日本分類学会連合

- 1. Bernhard Ruthensteiner (Zoologische Staatssammlung Munich): Scientific expeditions to Japan one century ago and the origins of marine

- collections at the Zoologische Staatssammlung Munchen.
- 2. Joachim Scholz (Senckenberg Institution, Frankfurt): Sagami Bay 1905-2005: new studies of a historical bryozoan collection in the Bavarian State collection of Zoology (Munich, Germany).
- 3. Dorte Janussen (Senckenberg Institution, Frankfurt) and Carsten Eckert (Naturkundemuseum Berlin): Hexactinellida (glass sponges) of the Sagami Bay compared with sponge faunas in other seas.
- 4. Hiroshi Namikawa (National Science Museum, Tokyo, 並河 洋, 国立科学博物館): The 120-year history of the faunal survey of Sagami Bay originated with Dorderlein.
- 5. Michael Turkyay (Senckenberg Institution, Frankfurt) Taxonomy and collections, basis of comparability in biological sciences.

- 2) 氏名 (日本語表記ならびにローマ字表記)
 - 3) 所属
- を明記の上, TAXA 運営担当の三中信宏 (taxa-admin@ml.affrc.go.jp) までご連絡ください.
- *****

[編集後記]

連載しておりました「連合の活動記録」でございますが、ニュースレター第7号以降は役員会が開催された程度で、特に取り立ててご報告すべき内容が無いことから、次号にまとめて掲載いたします。

これまで分類連合ニュースレターの偶数号では加盟学会の紹介を主に行ってまいりましたが、本第8号では日本土壌動物学会・日本プランクトン学会・日本珪藻学会・日本地衣学会・日本動物分類学会の5加盟学会から紹介記事のご寄稿を頂き、大変に盛りだくさんの内容となりました。執筆していただいた皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

分類連合ニュースレターではこの他にも随時加盟学会員の皆様から広くご寄稿を募集しております。原稿は柘原宛 (kazi@sci.hokudai.ac.jp) に電子メールでお送りください。電子メールが使用できない場合はFAX (011-746-0862) もしくは郵送 (〒060-0810 北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻) でお送りいただいてもかまいません。皆様からの多数のご寄稿をお待ち申し上げます。

(ニュースレター編集担当: 柘原 宏)

日本分類学会連合ホームページ

日本分類学会連合では、ホームページを開設しております (http://www.bunrui.info)。各加盟学会のホームページとのリンクや日本国内のタイプ標本データベース・日本生物種数調査の結果・掲示板など、コンテンツも次第に充実しつつあります。ニュースレターも含めて連合の活動を随時掲載してまいりますので、連合・加盟学会の活動状況を随時ご確認ください。

TAXA 生物分類学メーリングリスト

日本分類学会連合が運営するメーリングリスト TAXA は、生物分類学に関する情報交換や討論をするためのメーリングリストで、生物分類学に関心をもつすべての方に開放されています。TAXA メーリングリストは下記の趣旨により開設されました:

日本分類学会連合は、「生物の分類学全般にかかわる研究および教育を推進し、我が国におけるこの分野の普及と発展に寄与することを目的(規約第2条)」として、2002年1月12日に設立されました。現在、分類学に関係の深い27の学会が加盟しています。その後、本連合はこの目的に向かって様々な活動を展開してきましたが、このたび新たな事業として「メーリングリスト TAXA」を開設することになりました。このリストの趣旨は、本連合からの広報のほかに、登録会員が互いに分類学に関する情報交換や討論をするための場を提供することにあります。したがって、このリストは本連合の加盟学会の会員ばかりでなく、分類学に関心をもつすべての方に開放されます。なお、リストへの登録など管理、運営は本連合の担当者が行いますが、投稿は登録会員なら誰でも自由に行えます。多くの方が登録くださいますようご案内申し上げます。

2003年12月21日
日本分類学会連合
代表:加藤雅啓

TAXA は2003年12月13日に開設され、2003年12月24日午後5時に稼働開始しました。2005年10月31日の時点で【739】名の会員が登録されています。入会を希望される方は、

- 1) メールアドレス

日本分類学会連合ニュースレター 第8号
2005年11月15日発行
発行者 日本分類学会連合
事務局 〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-23-1
国立科学博物館
編集者 柘原 宏
